

1. 国立公園満喫プロジェクトの今後の方向性

(1) 日本の国立公園の特徴とインバウンド

- ◆ 自然に育まれた人々の暮らしや文化、歴史が根付いていて、共生している。(ブランドスローガン: その自然には物語がある～Stories to Experience～)
- ◆ 日本の自然保護の根幹を支える制度として、これまでも今後も大きな役割を果たす。

インバウンドの増加

国立公園満喫プロジェクト

インバウンド対策を通じて、
国立公園の魅力を再発見・再構築

(2) 基本的な視点

① 最大の魅力は自然そのもの

- 日本の自然の多様性やその魅力は世界に際立つ。
- 国立公園により、適切な保全と生業を支える。
- 自然そのものの魅力を生かすことで利用推進を図る。

② 暮らしや文化とともにある国立公園

- 国立公園には人の暮らしが息づく場としての価値と地域独自の魅力的な文化や歴史がある。
- 地域産業が経済的に持続可能なモデルを作る。

③ 体積で考える

- 客数だけでなく消費単価や体験の質の高さ・深さをかけた「体積」を大きくすることを目指す。
- シェアの大きい国内需要も意識して進める。

④ 多様なニーズに対応した楽しい国立公園

- 価格・内容でバリエーションのある施設・サービスを提供する。
- 自然環境と調和した高品質・高単価のサービスを提供して利用者、地域住民の満足度向上につなげる。
- 「体験型コンテンツ」の充実等により、滞在の長期化、消費額の向上等を促進

⑤ 広域的な視点で考える

- 国立公園を核に、利用者目線から広域的な観光圏を形成していく。

⑥ 利用者目線から現場を改善する

- 利用者目線に立てば誰にでも分かる不満の解消を現場でしっかり考えて、早急に対処する。
- 基本的な部分の改善を積み重ね、評価を上げる。

⑦ サステナビリティの視点を取り入れる

- 国立公園がサステナブルツーリズムの規範となるよう、公園でのツーリズムを誘導していく。
- エコツーリストから認められる価値・体験を提供する。

2. 国立公園満喫プロジェクトの指標と目標

(1) 訪日外国人国立公園利用者数



(2) 質の指標

2017年度	8公園平均
1) 国立公園での訪日外国人旅行消費額	65,851円
2) 国立公園周辺外国人延べ宿泊者数	2.8泊
3) 国立公園での外国人リピーター率	16.1%
4) 先行8公園での満足度 (大変満足割合)	39.0%

3. 国立公園満喫プロジェクトの枠組み

■ 先進的、集中的に取組を行う公園【8公園】

・公園全体を対象とする地域協議会を設置し、ステップアッププログラムに基づく総合的な施策を展開

成果を反映

■ 個別のエリア、テーマ等で集中的に取組を行う公園【H29,30年度は10ヶ所】

・8公園の取組の成果を踏まえ、公園内の限定した地域、または、特定のテーマを持った事業等、熱心な自治体等と連携したコンパクトで効果の高いソフト事業を中心に実施

★ 8公園に準じる公園【3公園】

・外国人利用者数が多い3つの公園(支笏洞爺、富士箱根伊豆、中部山岳)について、各公園の利用状況等を踏まえつつ、効果的な誘客や適正な利用の推進を図るため、地域を絞った地域協議会の設置等により関係者と連携した総合的な施策を展開

■ 上記以外の公園

・国立公園全体の共通の取組として、基盤整備(WiFi整備、多言語対応、ユニバーサルデザイン化等)や海外発信等を中心に推進

4. テーマ別の取組

橙字：2020年を目指す取組の状態

(1) 民間活用によるサービス向上

① 多様な宿泊体験の提供



【課題】
➢ ニーズや旅行形態に合わせた新たな利用計画が必要

【今後の主な取組】
➢ グランピングなど新たな宿泊体験の提供
➢ 宿泊施設の誘致候補地検討

国立公園における
宿泊体験の多様化実現

② 公共施設の民間開放



【課題】
➢ 先行事例以外にも事業成性を検証して拡げることが必要

【今後の主な取組】
➢ 新規案件の発掘、公募、運営
➢ PPP/PFI手法導入の検討

最高の自然をゆったりと
楽しめる環境の充実

③ 民間事業者との連携

【課題】
➢ オフィシャルパートナーとより具体的・効果的な連携が必要
➢ 奥地にある国立公園までの二次交通の改善が求められる

【今後の主な取組】
➢ オフィシャルパートナーとの連携のための事務局立ち上げ
➢ 二次交通の取組支援制度の検討

利用者ニーズにあった
情報やサービスの提供

(2) 受入環境の整備

① コンテンツの磨き上げ 受入体制強化

【課題】
➢ 多言語対応・受入能力に課題

【今後の主な取組】
➢ 外国人ニーズの高い野生生物等をテーマに体験プログラム開発
➢ 多言語ツアーデスク・コンシェルジュ設置

高品質の自然プログラムが充実
一括サイト構築による誘客力強化

② 引き算の景観改善

【課題】
➢ 点での景観改善にとどまっておらず、民間投資を呼び込むには不足

【今後の主な取組】
➢ 利用拠点の面的な景観向上を支援する制度の創設

自然を堪能できる眺望/街並み形成

③ 基盤整備

【課題】
➢ 改修・更新の中長期計画が必要
➢ 公衆トイレの快適性に課題

【今後の主な取組】
➢ 長寿命化計画の策定・実施
➢ 公衆トイレバリエーション事業推進

外国人がストレスフリーで
楽しめる環境整備

④ 人材育成

【課題】
➢ 裾野拡大とトップランナー育成

【今後の主な取組】
➢ 研修継続と先進地域の確立

インバウンド対応可能な充実したガイド

⑤ 利用者負担による 保全の仕組み作り

【課題】
➢ 地域自然資産法活用も含めたさらなる取組の充実

【今後の主な取組】
➢ 入域料導入支援制度の検討

利用者負担による受入環境
整備の更なる促進

(3) プロモーション

【課題】
➢ 目標達成に向けたより効果的で強力なプロモーションが必要

【今後の主な取組】
➢ 新宿御苑における国立公園PRのためのサイトセンター設置
➢ 予約專線を確保した国立公園サイト構築、マーケティング・プロモーション展開

外国人へのナショナルパークブランドの定着

(4) 関係省庁や地域との連携

【課題】
➢ 連携体制は整いつつあるが、交付金活用は公園ごとに差がある

【今後の主な取組】
➢ 交付金活用実績の更新・共有

総合的な取組の推進

(5) 体制強化

【課題】
➢ さらなる効果拡大のための体制強化が必要
➢ BCPの視点を取り入れる必要性

【今後の主な取組】
➢ 災害対応も含め、体制を強化

現地レンジャーによる
適正利用の推進

(6) 質の指標の活用

【課題】
➢ 適正なサンプルの確保
➢ 利用者目線での施策の強化

【今後の主な取組】
➢ 改良方式での年間を通じた実施
➢ 地域協議会へのフィードバック

利用者の声により改善が
重ねられる国立公園

(7) 全国展開

【課題】
➢ 民間活力をより活かすことが必要

【今後の主な取組】
➢ 自然公園制度見直し検討

国立公園でのインバウンド
拡大と利用の質向上

取組		個別指標	2016	2017	2018	2019	2020
国立公園 満喫プロジェクト 全体の進め方			先行8公園選定 地域協議会設立 ステップアッププログラム(SUP)12月策定	SUPの実施 満足度等の質の指標開発	SUPの実施と随時見直し プロジェクト全体中間評価(夏頃)	SUPの実施と随時見直し 中間評価を踏まえた事業改善	SUPの実施と随時見直し 今後の進め方の検討
			有識者会議設立	先行8公園での成果・知見を他の公園に展開			
訪日外国人 国立公園 利用者数 (万人)			490 (2015年) 546 (前年比11%増)	600 (前年比10%増)	(708) (前年比18%増)	(843) (前年比19%増)	1000 (前年比19%増)
(1) 民間活用によるサービス向上	①多様な 宿泊体験 の提供	・国立公園内の上質なホテル・旅館の数 16件(2018年)→増加 ・国立公園グランピング連携事業者数 2社(2018年予定)→増加		専門家による上質な宿泊施設候補地調査 (十和田八幡平、大山隠岐、霧島錦江湾) 民間と連携したキャンプ場改革の検討	宿舎事業のあり方検討 上質な宿泊施設の候補地の選定 民間と連携したグランピングの試行	公園事業制度の一部見直し 公園計画変更事業計画調整 民間主体によるグランピングの拡大	国立公園における宿泊体験の多様化実現 開発計画の具体化
	②公共施設 の民間開放	・新たに民間事業者を導入した公共施設数 1箇所(2016~2018.4) → 7箇所(2020年度)		川湯EMCカフェ内部改装 日光・カフェ試験出店伊勢志摩・カフェ整備 環境省所管土地・建物の使用許可期間延長(3年→10年)	川湯EMCカフェ試験導入 日光・カフェ本格出店伊勢志摩・カフェ営業開始	川湯EMCカフェツアーデスク機能本格導入 PPP/PFI手法による施設再整備・運営開始	新規案件の発掘、公募 新規案件の運営開始 最高の自然をゆったりと楽しめる環境の充実 施設再整備等・運用開始
	③民間事業者との連携	・オイヤルパートナー締結数 49(2018年)→増加 ・二次交通に関する新規取組数(うち、自主財源での取組数) 14(8)(2016~2018.3) → 増加		オイヤルパートナーシップ締結(49社) オイヤルパートナーと連携した車内・機内誌・ウェブ・待合室モニター等でのPR 満喫ライナー(日光)/定額タクシー、夕日観賞バス(大山隠岐)/直通バス(阿寒摩周)	オイヤルパートナーとの連携のための事務局立ち上げ 連携施策の促進 二次交通改善に向けた支援制度の検討	連携強化・効果的な情報発信の実施 支援制度の活用による導入推進	利用者ニーズにあった情報やサービスの提供 継続推進・増加
(2) 受入環境の整備	①コンテンツ の磨き上げ ・ 受入体制 強化	・磨き上げたコンテンツ数 69(2018.6) → 300(2020年度) ・コンテンツと二次交通を組み合わせたお勧めモデルコース数 (2018年度から取組予定) → 60個(2020年度) ・コンテンツ情報一元化が進んだ地域数 (集計方法を検討中) → 10地域(2020年度)		関係者ワーキング設置 コンテンツ洗い出し BtoB情報交換会 ファムトリップ実施 BtoC Web・冊子作成	先行8公園 セールシート・モデルコース作成 BtoBコンテンツ集取りまとめ・マッチング ファムトリップ実施 JNTO・エージェント連携強化	多言語ツアーデスク・コンシェルジュ1設置 野生生物等、外客の興味を惹くテーマで公園の魅力を整理	他公園への展開・拡大 高品質の自然プログラムが充実、一括サイト構築による誘客力強化
	②引き算の 景観改善	・撤去廃屋数 2件(2016~2018.4) → 10件(2020年度) ・景観デザイン計画策定地区数 4箇所(2016~2018.4) → 9箇所(2020年度) ・電線地集荷施設回収地区数 5箇所(2016~2018.4) → 7箇所(2020年度) ・眺望確保や景観向上 18箇所(2016~2018.4) → 31箇所(2020年度)		廃屋対策のスキーム整理 撤去・園地整備の検討・対応 阿寒湖温泉地区で景観デザインの手引き作成	各公園(日光等)における廃屋撤去・園地整備 利用拠点の景観向上を支援する制度の創設	継続実施 支援制度の活用による景観向上の推進 大山地区における電線地中化	継続実施 継続実施 自然を堪能できる眺望/街並み形成
					赤枠：中間評価を踏まえた新たな展開		

取組	個別指標	2016	2017	2018	2019	2020	
(2) 受入環境の整備	③ 基盤整備 <ul style="list-style-type: none"> 多言語化(ライティング) 1箇所(2017年)→40施設(2020年) リニューアル(再整備集団施設地区) 52地区(2017年)→80地区(2020年) トイレバリエーション(洋式便器割合) 0施設(2017年)→50施設(2020年) 工バリエーション 79%(2017年)→約90%(2020年) 長寿命化対策(長寿命化計画策定) 0公園(2017年)→全公園(2020年) 			阿寒摩周・川湯EMC における先行実施	先行8公園における多言語化 整備・支援制度検討	国立公園への展開 多言語化整備・支援制度実施	
			直轄ビジターセンターの 重点多言語化	国立公園多言語解説整備 事業による整備推進	公衆トイレ洋式化・ICT推進 UD整備、老朽施設更新	国立公園等施設利用環境整備事業による長寿命化改修の実施 全国の国立公園で長寿命化計画を順次策定	外国人が ストレスフリーで 楽しめる環境整備
			検討会立ち上げ カリキュラム検討・教材開発	カリキュラムの見直し 教材の拡充	デジタル教材・通信教育の 検討	インバウンド対応可能な 充実したガイド	
④ 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域における新規ガイドの養成数 →検討中 地域での自然体験プログラム等の 参加者数(又はプログラム収入) →検討中 プログラムの満足度 →検討中 		研修試行	より実践的な研修実施	より広範な対象に研修実施	インバウンド・外国語対応可 能な先進的地域の確立	
			各公園でのツアーの 実施方針等策定	各公園で協力金付きツアー の試行・本格実施	継続実施	利用者負担による受入 環境整備の更なる促進	
			利用者負担の新規仕組みの件数 5(2016~2018.7) →15(2020年)	利用料等の 検討調査の実施	支援制度の活用による 導入推進	継続実施・導入増加	
⑤ 利用者負担による保全 の仕組み作り	入域料の新規仕組みの実施数 2(2016~2018.7)→増加	入域料導入支援制度の 検討	デジタルマーケティング・ プロモーション展開	外国人への ナショナルパーク ブランドの定着			
(3) プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> 公式Facebookファン数 56,822(H30)→150,000(2020年) Facebook新エンゲージメント率 7.1%(H30.6)→毎月平均5%以上 国立公園ウェブサイトPV数 →検討中 	国立公園Instagram・ Facebook開設	国立公園統一マーク作成	JNTO連携 国立公園サイト構築準備	サテライトセンター設計・施行開始	デジタルマーケティング・ プロモーション展開	
		各種メディアを活用した プロモーション	各種メディアを活用した プロモーションの継続実施	各省庁連携の取り組み状況 関連交付金一覧の作成	各省庁連携の取り組み状況 関連交付金及び活用実績 一覧の更新	継続推進	総合的な取組の推進
		一覧を地域協議会に提示 交付金活用等の 幅広い取組を促進	継続推進	現地レンジャー数を 125名に増員	現地レンジャー数を 150名に増員	災害対応の人員を含め、 175名に増員	現地レンジャー数を 200名に増員
(4) 関係省庁や 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 省庁連携による取組数 32(2017年度)→40(2020年度) 先行8公園における公園外の取組 数 41(2017年度)→50(2020年度) 	増員による成果を拡大	増員による成果を拡大	増員による成果を拡大	増員による成果を拡大	現地レンジャーによる 適正利用の推進	
		災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築
		先行8公園における 調査	先行8公園における サンプル確保のための調査	調査継続	先行8公園における 調査	先行8公園における サンプル確保のための調査	調査継続
(5) 体制強化	<ul style="list-style-type: none"> 現地レンジャー数 150名(2018年度)→200名(2020年度) 	増員による成果を拡大	増員による成果を拡大	増員による成果を拡大	増員による成果を拡大	増員による成果を拡大	
		災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築	災害前の情報発信の充実、災害後の情報発信・施設整備の体制構築
		結果を踏まえた 各公園へのフィードバック	結果を踏まえた 各公園へのフィードバック	フィードバックの継続	結果を踏まえた 各公園へのフィードバック	結果を踏まえた 各公園へのフィードバック	フィードバックの継続
(6) 質の指標の 活用	<ul style="list-style-type: none"> 先行8公園での回収対象 1,097票(2017年度) →2,400票(2018年度~) アンケート結果を踏まえた 改善事例数 →毎年度増加 	先行8公園の成果共有体制作り 1件(2017年度)→3件(2020年度)	廃屋対策ガイドラインまとめ	自然公園制度の見直し	自然公園制度の見直し	自然公園制度の見直し	
		展開事業の開始	展開事業の継続・ 効果検証	効果検証を踏まえた展開	効果検証を踏まえた展開	効果検証を踏まえた展開	効果検証を踏まえた展開
		シンポジウムの開催	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成
(7) 全国展開	<ul style="list-style-type: none"> 自然公園法等に関する制度見直し 1件(2017年)→制度見直し(2020年) 	展開事業の開始	展開事業の継続・ 効果検証	効果検証を踏まえた展開	効果検証を踏まえた展開	効果検証を踏まえた展開	
		シンポジウムの開催	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成
		展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成	展開事業事例集、各種ガイドライン作成

赤枠：中間評価を踏まえた新たな展開